

広島大学旧理学部 1 号館の保存・活用に係る意見・提案等（平成 25 年 4 月以降）

〔広島市議会〕

| | 意見・提案内容 |
|---|---|
| 平成 26 年度予算特別委員会 総括質疑（平成 26 年 3 月 14 日） | ・旧理学部 1 号館は、被爆建物であり、旧文理科大学の建物である。デザイン振興拠点などとして保存・活用していただきたい。 |
| 都市機能向上対策特別委員会 （平成 26 年 6 月 10 日） | ・民間の開発と併行して考えていくべきである。結論を早めに出して欲しい。 ・早期に活用することが必要である。旧日銀も検討委員会と市民の意見を聞いた。広く市民の意見を聞く必要がある。 ・広島平和記念都市建設法の目的、広島市長の責務、国等の援助の内容を踏まえれば、支援を求めていくべきである。 ・どこを残すか早く結論を出すべきである。個人的には、正面を残す案が良いと思う。ヨーロッパでは表面を残し、中は近代的な建物にしている事例もある。国内や海外の例なども参考に、早い結論を出して保存活用をしてほしい。 |
| 平成 26 年第 2 回定例会 一般質問 （平成 26 年 6 月 24 日） | ・この地を「知の拠点」にふさわしいものとするため、旧理学部 1 号館の敷地を活用し、例えば、市内の大学の協力を得て、共同教育拠点など、研究機能、高度人材育成機能の充実に資する施設の整備を検討してはどうか。 |
| 平成 25 年度決算特別委員会 （平成 26 年 10 月 8 日） | ・この建物は原爆ドームに劣らないだけの価値のある施設だと認識している。少々お金がかかろうとも、例えば博物館とかあるいはデザイン振興拠点であるとか、そうした広域的な活用ができるような施設に有効活用してもらいたい。 |
| 都市機能向上対策特別委員会 委員長報告 （平成 27 年 3 月 11 日） | （委員長報告に都市機能向上対策特別委員会での意見として以下の内容を記述） ・時間が経てば経つほど難しくなるので、結論は早めに出していただきたい。 ・市民の意見を聴くため、検討委員会の設置も必要ではないか。 ・国内外でも例がある正面を残す案で早く決断していただきたい。等 |
| 平成 28 年第 1 回定例会 総括質問 （平成 28 年 2 月 18 日） | ・県の広島国際平和研究センター（仮称）、広島市立大学広島平和研究所、広島大学平和科学研究センター、ユニタール広島事務所や、外務省軍縮不拡散・科学部に平和に関する研究機関を新設し、これら 5 つの機関が集まった「平和の知の拠点」構想を提案する。 ・この「平和の知の拠点」構想が旧理学部 1 号館の場所で実現できれば素晴らしいことだと思う。 |

〔市民団体等〕

| | |
|--|--|
| ・元広島文理大（旧広大理学部 1 号館）の保存を考える会 ・原爆遺跡保存運動懇談会 ・広島芸備地方史研究会 （平成 26 年 6 月 17 日） | ・「知の拠点」にふさわしい保存活用を前提とすること。必ず、原爆被災資料室を設置すること。 ・早急に「旧広大理学部 1 号館保存活用検討委員会」（仮称）を設置すること。検討委員会には、耐震建築専門家、被爆建物に詳しい学者、町内会・商店会代表、被爆者代表、保存運動団体代表などを含むこと。 ・上記委員会として広く市民の要望意見を聞き、徹底した議論を行い答申を得ること。 |
| 広島大学 （平成 26 年 8 月 19 日） | ・かつての学都広島象徴であり被爆建物でもある旧理学部 1 号館については、森戸道路からの景観を残しつつ、社会人教育機能も備えた産・学・官の連携組織の活動拠点としての活用を図るなどにより、「知の拠点」全体の機能も一層高まるものと考えている。 ・旧理学部 1 号館の保存・活用に向けて、地域、地元経済界並びに広島地域の大学と一体となって、是非とも検討していただきたい。 |